

銅輸出入、電気銅、スクラップとも増加

自動車は生産、販売ともに増加 住宅着工戸数は減少

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏
一月前半は世界的な新型コロナウイルス感染拡大に加え、変異種の感染増加に対する警戒感もあり、

■国際概況

英国で行動規制が強化されたことなどのマイナスマテリアルもあつたが、世界的に新型コロナウイルスのワクチン接種が拡大するとの期待感や、中国の財新一〇二〇年十二月の製造業購買担当者景気指数(五三三)を受けて同国の景気回復継続が示されたことを好感し上昇、LME銅相場は一月十五日時点で八、〇〇二(五ドル(セツル))と月初価格より八四ドルUPの前半締めとなった。後半は米バイデン次期大統領が一・九兆ドル規模の追加経済対策を発表したことなどのプラス材料もあつたが、中国での新型コロナウイルス拡大による需要不安などを嫌気しLME銅相場はDOWN、一月二十八日現在、後半スタート価格から八四・五ドルDOWNの七、八九五ドル。二月スタート建値は八六万円。

■前月の経済指標
●月間のドル/円レート(TTS)
一〇四・〇八→一〇四・六八(円)。
●自動車生産台数
生産動態統計によると、十二月の自動車生産台数は前年比四・一%増の七二万八、一七三台。輸出は七・七%減。

●自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比六・八%増の二二万六、五九二台。

●新設住宅着工件数
十二月の新設住宅着工は、持家は増加したが、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比九・〇%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比四・二%の減少となった。

新設住宅着工戸数は六万五、六四三戸で前年同月比九・〇%減と、一八カ月連続の減少。新設住宅着工床面積は五、三八五千㎡で同七・九%減と、一七カ月連続の減少。季節調整済年率換算値では七八万四千戸で前月比四・二%減と、三カ月ぶりの減少。

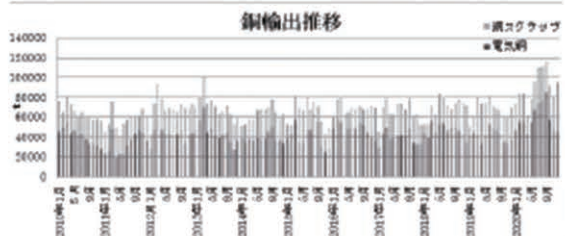
◆貿易関連指標

輸出
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二・三・七%増の四万五、一一四t、スクラップが四七・三%増の四万九、六七二t。輸入
輸入は電気銅が前年比一・三・三%増の一、四七三t、スクラップが二一・三%増の九、四四四t。

■前月の国内指標
日本伸銅協会発表の十二月の伸銅品生産量は五万八、四二〇トンで前年同月比二・三%減と、二五カ月連続のマイナスだった。
日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比五・三%減の五万三、七〇〇tであった。

■国内概況まとめ
【自動車生産】
生産動態統計によると、十二月の自動車生産台数は前年比四・二%増の七二万八、一七三台。輸出は七・七%減。

【自動車販売】
日本自動車販売協会連合会によると、一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比六・八%増の二二万六、五九二台。
このうち乗用車八%増、貨物〇・一%増、バス四五・四%減。(六面へ続く)



LME銅、今月はコロナワクチン、中国の景気動向がカギ 為替予想

【四面より続く】

【住宅着工戸数】

十二月の新設住宅着工は、持家は増加したが、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比九・〇％の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比四・二％の減少となった。

【伸銅品生産】

十二月の伸銅品生産量は五万八、四二〇トンで前年同月比二・三％減と、二五カ月連続のマイナスだった。

品種別では、銅条が前年同月比八・一％増と三カ月連続プラス、黄銅棒は前年同月比五・七％減と一七カ月連続のマイナス。

【電線出荷】

十二月の銅電線出荷量(推定)は前年比五・三％減の五万三、七〇〇t。

このうち国内三・六％減、輸出が五・三％減。

【輸出】

電気銅輸出が三・七％増の四万五、二四t、銅スクラップが四七・三％増の四万九、六七t。

【輸入】

輸入は電気銅が一・三％増の一、四七三t、スクラップが二・三％増の九、四四t。

【見通し】

・十二月の自動車生産が四・一％増。一月国内販売台数が前年比六・八％増。

生産・販売ともに増加、今後を期待。

・十二月の伸銅品生産量は五万八、四二〇トンで前年同月比二・三％減と、二五カ月連続のマイナスだった。

十二月単月で見ると、震災のあった翌年、二〇一二年十二月以来の低い生産量だった。

最近新聞メディアで話題となっている自動車向けの半導体の不足に関して、同協会が会員

企業から聞く限り、半導体不足に伴う関係する伸銅品への影響は見られない。ただ、不可能な短納期の半導体向け伸銅品の受注の話とかはあったようだとのこと。

・十二月の銅電線出荷量(推定)は前年比五・三％減の五万三、七〇〇t。

このうち国内三・六％減、輸出が五・一三％減。輸出は米中景気の回復期待需要から共に増加。

・銅輸入は思ったほど国内生産は落ちていない事から共に増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が八四万円から八七万円まで上昇したため、前月に続き玉は潤沢。

需要面に関しても前月同様、国内自動車生産販売の回復などの好材料もあるが、建設系の需要が低迷している事から上物は荷余り感あり。

【LME・為替予想】

今月は引き続きコロナワクチン問題、中国景気の動向に左右される。

中国景気に関しては感染拡大懸念や製造業関連指数の悪化や金融引き締め懸念から、足踏み状態になるのではないかと。

コロナワクチンの動向に関しては、各国でのワクチン接種も始まっており、諸々問題はあつたものの比較的順調ではないかと。

これらを踏まえた二月の銅価格は七、〇〇〇〜八、〇〇〇ドル(セトル)との予想。ドル円値は一〇三円〜一〇五円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては七六〇〜八八〇円程度と予測している。

鉄原料

東京製鉄が三工場と高松で買い値引き下げ

値下げ幅は五〇〇〜一、〇〇〇円

電炉最大手の東京製鉄は二月三日、田原、岡山、九州の各工場と高松鉄鋼センターで鉄原料購入価格を引き下げた。値下げ幅は田原

工場が一律・トン五〇〇円、岡山工場と九州工場及び高松鉄鋼センターは一律・トン一、〇〇〇円。同社での値下げは一月三十日以来、宇都宮工場は前回に続き、据え置き。

同社の特級価格のレンジについては二万九、〇〇〇〜三万八、〇〇〇円と、下値はレンジ最安値の宇都宮工場が据え置きだった

ことから引き続き変わらず。上値は五〇〇円切り下がった。

なお、東京製鉄の特級価格は次の通りとなった(トン当り・円)。

▽田原工場(陸・海上) || 三万八、〇〇〇
▽岡山工場(陸・海上) || 三万七、五〇〇
▽九州工場(陸・海上) || 三万七、〇〇〇
▽宇都宮工場(陸上) || 二万九、〇〇〇
▽高松鉄鋼センター(陸上) || 三万六、五〇〇